

未来への希望を胸に

令和8年

20歳のつどい

祝



20歳の抱負 原田 尚弥さん

本日私たちが20歳という人生の大きな節目にこのような晴れやかな式典を開催していただきましたことに、心より感謝申し上げます。20年間温かく見守り支え、育ててくださった家族、先生方そして地域の皆様のおかげで今日という日を迎えることができました。ここにいる全員とこの日を迎えることができるのをとても嬉しく思います。学生生活を振り返ると楽しい思い出がとてもたくさんあります。私だけではなく皆さんもその中で楽しいことや幸せなことだけではなく、悩みや不安を抱えた時もあったと思います。

私自身この式を迎えるに当たって一つだけ達成することができない目標があります。それは大切な親友と一緒に式に出ることができなかったことです。大切な親友は何事にも全力でやり遂げる人でした。また、私自身、部活動がとても活発でしんどい時にはいつも心配してくれて、相談に乗ってくれて、笑わせてくれるとても大切な存在でした。そんな姿から『絶対に諦めない心や、周りの人を笑顔にする大切さや偉大さ』を学びました。これからはより一層大人としての自覚と責任を持ち、自分の行動に対して責任を持つことが求められます。これからは、簡単な道ばかりではないと思いますが、失敗を恐れず何事にも簡単に諦めることがないように一步ずつ前に進んでいきたいと思います。

また、今まで温かく育ててくださった皆様への感謝の気持ちを忘れずにこれまで支えていただいた事を今度は自分が返していくような人、周りの人たちを幸せにできるような人になるような事を目標にこの先も努力を重ねていきます。私の20歳の抱負といたします。



1月11日、令和8年20歳のつどいが行われました。今年、愛荘町では245人が20歳の節目を迎え、当日は188人が20歳のつどいに参加しました。

1月11日、パーティーセンター秦荘にて「20歳のつどい」を挙行しました。華やかな振袖姿、凛々しいスーツ姿の参加者が集い、再会を喜び合い写真を撮る姿など、笑顔があふれる一日となりました。

式典では、本持さんの演奏に合わせて国歌斉唱を行った後、来賓祝辞および実行委員の原田さんと向角さんが20歳の抱負を述べられました。続く第2部では、小・中学校時代の恩師から寄せられたビデオレターが上映され、会場は温かな感動に包まれました。

保護者の皆さんも会場周辺から成長した姿を見守り、節目を迎える若者にとっても、支えるご家族にとっても記念となる一日となりました。

参加された皆さん、この日の思い出と新たな決意を胸に、未来へ大きく歩み出されることを願っています。



20歳の抱負 向角 映南さん

20歳という節目を迎えるにあたり、これまで支えてくださった皆様に、心より感謝申し上げます。また、愛知川地区と秦荘地区が合併して愛荘町が誕生して20周年という記念すべき年に、こうして仲間とともに「20歳の集い」を開いていただけることを、大変嬉しく思います。町が20年、私たちが20歳。町の歩みと私たちの人生が重なるようで、不思議なご縁を感じています。

この20年間、日本の社会は大きく変化しました。小学校1年生の時に経験した東日本大震災、中学3年生での新型コロナウイルスの流行。日常が一変し、人と会うことさえ難しくなった時期もありました。“当たり前”が当たり前ではなくなり、行事や生活の多くが制限され、戸惑うことばかりでした。しかしその中で、互いを思いやりながら工夫して行った文化祭や体育祭は、今でも心に残る大切な思い出です。

卒業式でマスクをつけて歌った「桜の雨」の『幾千の学び舎の中で僕らが出会えた奇跡』という歌詞の通り、私たちがこの愛荘町で出会えたことは、まさに奇跡であり、ご縁だと感じています。

私は、この町のあたたかさが大好きです。地域の皆様、先生方、そして友人たちが、どんな時も支えてくださいました。現在、私は他県の大学で教師を目指して学んでいます。これから社会へ踏み出す中で、多くの人と関わっていくことになると思いますが、人と人とのつながりを大切にし、自分も誰かの力になれる大人へ成長していきたいと考えています。いつか教師として、愛荘町の子どもたちや地域に恩返しができるよう、努力を重ねていきたいと思います。

今日という日を迎えたのは、家族や友人、先生方、地域の皆様の支えがあったからです。感謝の気持ちを忘れず、これからは私自身が誰かを支えられるよう、一步一步成長していきたいと思います。

